

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月22日実施)	総合評価 (3月11日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①自立と社会参加を目指し、「学びの連続性」「個のニーズにあわせた教育」を推進する。 ②児童・生徒の命を守る教育を推進する。	①「学びの連続性」のある教育について、引き続き取り組み、教育課程の改善を図る。  ②防災教育を充実させ、児童・生徒の安全意識の向上を図る。	①-1 学びの連続性を踏まえ、将来を見据えた教育活動を展開する。  ①-2 学習指導要領への理解を深める研修を実施する。  ②発達段階に応じて体験的に学べるような防災教育を計画する。	①-1 学びの連続性を踏まえ、将来を見据えた教育活動を展開できたか。  ①-2 学習指導要領への理解を深める研修を実施できたか。  ②全校の防災教育計画を作成できたか。	①-1 各学部の「体育」について、ねらいと学習内容をまとめたものを作成した。 ①-1 体育科教科会で各学部の年間指導計画を共有した。 ①-2 中学部では、学習会を2回実施した。 ①-2 小学部では生活科について学習会を実施し、その後学年会で内容を検討した。  ②小学部では学部全体防災教育計画を作成した。 ②学校全体の防災教育計画は作成に至らなかった。 ②シェイクアウト訓練を継続的に行い自ら行動する学習を進めた。	①-1 各学部内で学びの連続性について確認し、必要に応じて整理することが必要。  ①-2 各学部で実施した学習指導要領の内容の共通理解をもとに、引き続き現在の教育課程を改善する。  ②全体計画作成に向けて、現在の各学部の計画についての把握とともに、今年度取り組んだ安全行動の定着度シートの防災教育計画への活用を図る。	≪教育活動アンケート(保護者アンケート)≫ 「楽しい学校生活」「学校目標への共感」など学校運営全般についての項目は、80%以上評価されており良好。 「ICT機器の活用」の項目は「思う」の率が48%(教員対象の同アンケートでは71.7%) →保護者への周知・報告が課題  【学校運営協議会】 教育活動アンケートについて3年間継続して実施していることが評価される。分析結果について、次年度の改善につなげてほしい。 ネットワーク環境についてさらなる充実を希望する。	①-1 今年度は学校全体で「体育」の授業について学部内の整理・見える化をした段階であり次年度以降連続性を検証し確立する。 ①-2 学習会の実施により職員間で共通理解を図ることができた。必要な内容を学習できる老教育課程の改善を進めることが必要。 ②全体防災教育計画の作成に至っていないため、その手順を決定し、計画に沿って進められるようにすることが必要。 ★ICT機器・環境の整備とその活用を進める必要がある。	①-1 学部内での連続性について検証、整理し、その後、学部間の連続性の観点での確認、検討を進める。  ①-2 教育課程の改善を行い、学部の教員全員が共通理解のもと、授業を計画し実践する。  ②防災を担当する管理運営Gが中心となり、アウトラインを作成・提示し各学部の防災教育計画を支援しながら、防災教育の全体計画を完成させる。 ★機器・環境の整備等進めるとともに活動を配付物等でPRする。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	①アセスメントを充実させ一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導・支援を組織的に行う。 ②インクルーシブ教育に係る本校の役割を模索し、推進する。	①アセスメントを行い、個別の支援計画や教育計画に反映させ、わかる授業を展開する。  ②交流や共同学習の工夫と改善を行う。	①自立活動の研究を進め、わかる授業・根拠のある指導を実践する。  ②各学部で交流や共同学習のねらいを確認し、ねらいを実現する活動内容を検討する。	①わかる授業・根拠のある指導実践を展開できたか。  ②ねらいにあった活動内容の検討が進んだか。	①研究を進める中で教員へのアンケートを実施し、「根拠のある指導」「わかる授業」の項目で9割の肯定的意見があった。 ①学習指導要領からの教科内容表をデータ作成した。 ②中学部は学校交流のねらいを学部内で再確認し共有した。 ②新型コロナウイルス感染症への対応のため、人的交流が困難であり、ねらいの整理も難しかった。	①アンケート内容を全職員に周知し改善点について取組を進める。 ①教科内容表を職員に周知し、データベースとして活用できるようにする。 ②作品の展示などの物的交流は実施できたが、次年度に向けてねらいを再確認し、リモートでの交流等相手校とねらいを共有して実りある交流を行えるようにする。	(生徒による授業評価) 本校・分教室とも各授業について「できない」とした評価の割合が増加している。調理を含め新型コロナウイルス対策のための活動変更や制限が影響していると思われる。  【学校運営協議会】 生徒による授業評価は、自己の成長を確認、結びつく項目となっている。	①自立活動の研究を進めることで、「根拠のある指導」「わかる授業」を教員が実感している。次年度に向けて研究実践を進めていく。 ②今年度は交流・共同学習の実施が新型コロナウイルス感染症への対応のため非常に困難であった。そのため、ねらいの整理も大きく進まなかった。	①・引き続き教育支援グループを中心に、研究を推進する過程で教員一人ひとりの意識を高め、授業計画・実践に反映させる。  ②各学部等でねらいの確認と共有を図りつつ、今年度末から次年度は初めにかけて交流相手校とお互いのねらいを理解しあい、活動を考えるようにする。
3 進路指導・支援	①卒業後の生活を見通し、小・中・高それぞれのライフステージに応じた進路指導・支援を実施する。	①進路指導・進路学習の観点で、学習のつながりについて確認し、理解を図る。  ①-2 進路ハンドブックを改定する。	①-1 学部で身に付けたい力を検討し、学習内容との繋がりを整理する。  ①-2 進路ハンドブックを改定する。	①-1 身に付けたい力と学習内容のつながりが整理できたか。  ①-2 進路ハンドブックを改定できたか。	①-1 小学部では、生活科の学習内容で身に付けたい力との関連を確認した。 ①-1 舞岡分教室では身に付けさせたい力を確認・共有し、そこからの課題(日課表の改善、職業班の編成等)の整理を行った。 ①-2 進路の手引き(ハンドブック)について、班会議・各学部会で検討を重ね、身に付けたい力と日ごろの指導のつながりが分かる表を作成し、手引きに盛り込む改定を行った。	①-1 生活科以外の教科等授業でも確認・整理していく。 ①-1 進路の観点からの日課表等の改善を順次行っていく  ①-2 今後、小・中学部教員対象の進路研修会を周知し、活用につなげる。	【学校運営協議会】 小中学部段階から長い目で見て就労など卒業後の進路に向けた情報やアドバイスを保護者に提供するとよい。  進路の手引きの改定はとても良い。小学部から高等部までの流れが網羅されているとよい。  ≪保護者アンケート≫ 「進路指導の充実」の項目について昨年度「思う」の率51.2%→今年度57.7%に上昇。	①-1 各学部等で身に付けたい力の確認・整理を進めた。あわせて現在の授業計画や内容の改善が必要である。  ①-2 進路の手引きに、各学部の身に付けたい力と日ごろの指導のつながりが分かる表を盛り込めた。今後の活用が大切である。	①-1 引き続き、教職員間の共有の機会を各学部等で設定し、具体的な授業計画・授業内容に取り入れる。  ①-2 改定された進路の手引きを各学部の教職員を中心に周知・共有するとともに、個別教育計画や授業計画に取り入れるよう、進路支援班と各学部学年が連携する。また、保護者への情報提供を充実させる。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月22日実施)	総合評価(3月11日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<p>①学校運営協議会を活用し、地域との連携を推進する。</p> <p>②センター的機能の更なる推進を図る。</p>	<p>①学校運営協議会を活用した地域への情報発信や活動の充実を図る。</p> <p>②引き続き小中高への支援の充実を図る。</p>	<p>①切れ目ない支援部会の活動成果を踏まえた地域交流の実現に向け情報を発信する。</p> <p>②小中高の職員に役立つ情報を発信する。</p>	<p>①地域交流の実現に向け情報発信ができたか。</p> <p>②小中高の職員に役立つ情報を発信できたか。</p>	<p>①切れ目ない支援部会の活動、及び地域交流は今年度の実質的な活動が困難であり、そこからの発信もできなかった。</p> <p>②相談担当者が小学校の巡回事例を地域連携職員間で共有し、意見交換したものをまとめ、教材や支援方法について、相手校へ情報提供できた。</p> <p>③専門職から新型コロナウイルス感染症への対応等に関する情報について、ホームページに掲載するとともに巡回相談の際に情報提供を行った。</p>	<p>①今年度部会で集めた情報をもとに次年度の地域交流の活動を構築し、その成果を発信する。</p> <p>②今後も巡回事例を職員と共有し多面的にとらえることで効果的な巡回相談につなげる。</p> <p>③巡回相談等で必要とされる情報を把握し、発信する。</p>	<p>《保護者アンケート》 各項目それぞれ昨年度より「思う」評価の割合が減少している(「地域資源の活用 75.7%→64.8%」「共生社会実現 74.3%→57.7%」「地域との連携 64.2%→50.5%」)。新型コロナウイルスへの対応による影響と推察される。</p>	<p>①地域交流の実現に向けた情報発信はできなかった。まずはできることを検討し取り組む必要がある。</p> <p>②相談担当専任や専門職だけでなく地域連携員すべてが相談内容を把握共有し、支援内容を検討することで相手校のニーズに幅広く対応できるよう進めた。</p>	<p>①ボランティア活用情報を各校より収集し、また協議会委員や部会構成員の方々からの地域交流事例等の意見を今年度収集しており、そこから次年度の実施計画を構築する。</p> <p>②今後継続して同様に対応していくとともに、班員の相談対応スキルを高めることや校内の人材・情報を活用することなども検討し行っていく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①事故不祥事防止を徹底する。</p> <p>②児童・生徒と向き合う時間を確保するため校務の効率化を図る。</p>	<p>①児童・生徒の安心安全に配慮した活動を継続する。</p> <p>②事故不祥事防止を図りつつ、校務の効率化を検討する。</p>	<p>①-1 人権研修等の啓発活動を行うとともに学部での指導振り返りの機会を設ける</p> <p>①-2 児童生徒の健康や安全に関する情報交換を的確に行い、事故の未然防止を図る。</p> <p>②各部署で校務の事故防止や効率化を検討する。</p>	<p>①-1 人権研修と学部での指導振り返りが効果的に行われたか。</p> <p>①-2 情報交換を的確に行い事故を未然に防げたか。</p> <p>②事故・不祥事防止と校務の効率化の検討が進んだか。</p>	<p>①-1 各学部等で人権研修・学習会を実施した。自校講師方式の研修を各学部等で行ったことでそれぞれの課題がより鮮明に理解・共有できたと考えられる。</p> <p>①-1 研修後、意見の中で多かったテーマを選び1月に全学部で一週間「指導実践期間」を設け、実施した。事後のアンケートでは「テーマに沿って人権に配慮した支援指導に取り組めた」との回答が96%であった。</p> <p>①-2 新型コロナウイルスへの対応として、段階に応じた消毒方法の手順書の作成・周知や物品の管理を徹底した。また、検温表の変更や校内の健康観察カードの書式変更を行うなど、県の通知や情報から適切な変更や修正を適宜行った。</p> <p>①-2 各学部・学年会で全職員対象摂食指導研修を行った。今年度無事故だった。</p> <p>②各学部でペーパーレス化の取組、電子データや資料の整理、業務サポーター等の職員への業務分担等活用などを進めた。</p> <p>③校務グループでは、会計・教科書採扱業務でチェック表の整備などを進めるとともに、教育支援グループでは係分担や業務の狙いを明確化し、業務のスリム化を図った。</p>	<p>①-1 人権に配慮した指導実践の課題について、他学部との情報共有の方法を工夫する。</p> <p>①-1 今年度の実践をもとに、人権研修を受けるだけで終わらず、教員一人ひとりの人権意識を高め、日々の指導実践に直接つながる取組の継続を検討する。</p> <p>①-2 引き続き感染状況や県などからの通知等により、迅速・適切にマニュアルを変更し、感染拡大防止対応を実施する。</p> <p>①-2 引き続き研修会を実施する。</p> <p>②各学部等で年度末アンケートをもとに引き続き事故防止の観点から業務の効率化を進める。</p>	<p>《保護者アンケート》 安心安全な学校づくりの評価として、「防災対策」「個人情報保護」「健康安全」「人権尊重と丁寧な指導」等の項目について、「思う」評価は70～80%台と良好。</p> <p>【学校運営協議会】 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について地域や保護者にさらにPRしていくことで周知・評価され、アンケートにも反映されるようになるのではないかと。</p>	<p>①-1 研修実施だけに終わらせず、研修の振り返りからテーマを絞り、それぞれのチーム全体で集中的に意識して取り組むことで、教職員が意識して人権に配慮した指導・支援が進んだ。</p> <p>①-2 感染拡大防止対策として、各校務グループや学部等が協力・分担を適宜行い、その連携のもと実施している。全職員や保護者などの情報の共有と協力は改善の余地がある。</p> <p>②事故防止を考慮しながら業務の効率化を図ることについて、それぞれの業務の中でできるところから改善を図っている。学校全体として組織的に取り組んでいないところが課題である。</p>	<p>①-1 教育支援グループ、各学部等で人権研修の内容を、日頃の指導・支援に反映させる方法を検討し実践する。</p> <p>①-2 全職員の情報共有と即応した行動がとれる準備や保護者・地域への必要な情報発信と学校との協力体制の在り方などについて検討し改善を図る。</p> <p>②学校全体で、業務の効率化についての取組を計画的・継続的に進める。</p>